

「写真でたどる ふるさと再発見」

～甲良町4500年の歴史をたどる～



甲良町 『ふるさとプロジェクト』 メンバー

上野 芳樹

わがふるさと甲良町



平成26年5月8日 日本創成会議公表

「消滅可能性都市」

20～39歳の女性（若年女性人口）が2040年までに半分以下になる自治体

甲良町 ~~多賀町~~ ~~竜王町~~

令和6年4月24日 人口戦略会議公表

多賀町・竜王町は脱却

甲良町が消える………！

周りの市町から取り残され
ずるずると朽ち果てていく甲良町…… ~~情けないなあ……~~

もう一度わがふるさを見つめ直してみよう

**「甲良って、やっぱりすごい。ええとこやん！」
といえるものを拾い集めて町民に伝えよう！**

Y氏の呼びかけで数人が集まり、私もその一員になった

平成30.7.11

「ふるさとプロジェクトチーム」 結成（メンバー4人）

Y氏の提案

**家庭や地域に残っている写真から
ふるさとの記憶を掘り起こし、
甲良町広報で紹介しよう！**



移動図書館

戦後、滋賀県内の公共図書館は県立1館、公立2館、私立2館のみという時代に、町民の本を読みたいという思いに応えるため甲良町では、昭和39年に県の移動図書館車「しらゆき号」の払い下げを受けて、内部を改造し後部に図書、前部には映写機などを積み移動公民館として町内15か所を毎月2回巡回し本を届けました。

写真でたどる

ふるさと再発見

No.
5

保 育 園



昭和22～23年生まれのベビーブームの子どもたち



□ひかり保育園 オート三輪で遠足
(昭和31年頃)

このような「なつかしの写真からふるさと再発見」をNo.66まで続けました

写真でたどる ふる

厚生社

今より3回にわたり、「厚生社農業協同組合」誕生明治33年に産業組合法が公布され、その3年後の明治36年に、東甲良村、西甲良村、河瀬村、亀山村、1村。時あたかも日露戦争勃発前、全国一の規模を誇る。



野瀬市太郎氏銅像
(町立図書館前に建立)

豊郷村史に組合設立の功で、同氏は厚生社の生みの親と称され、産業組合法は将来の発展は望めない。愛、里人の頼母子講なり、の偉大な発展を手本とする社務所において発起人会が決定されました。

野瀬氏は滋賀県議員、東甲良旧校舎の建設など農村文化の開拓

厚生社の名は、書経「正徳利用、厚生惟和」(徳を正し用を利し、生を厚くして惟れ和す)の成語から命名され、「厚生」とは衣食住の不足がないようにさせ、生活を豊かにするという意味です。

現在の役場敷地にボブの植込みがよく似合う、田舎に珍しいトンガリ屋根の洋風建物で建てていました。厚生社の東西甲良地域の神明事務所です。主な事業は、信用金庫、日用雑貨品の販売で、施設として精米所と雑穀保管倉庫2棟がありました。

昭和中期には、東甲良村横間と西甲良村尼子に出張所を建設し、神明事務所は、昭和30年4月甲良町合併によって役場庁舎となりました。

大正3年より玄米の共同販売をはじめ、大正13年組合精米を行い、昭和初年には白米の販売量は1カ2000石をこえました。(一石=約150Kg)

その後、厚生社の名称は明治40年、厚生社信用販売、大正12年厚生社信用販売購買利用組合とかわりました。

参考：厚生社のあゆみ 滋賀県百科事典 農
写真提供：JA東わくわく農業協同組合

【問合先】 ふるさとプロジェクト(図書館)

写真でたどる ふる

神楽廻し

家族で年神様をお迎えする正月行事の一つに神楽廻しがあります。

神楽は正式には伊勢大神楽といい、カグラマワシマイ、ダイカグラ、オカグラ、カグラなどと親しんで言われています。町内では1月から2月の間に巡回がありますが、正月だけでなく一年中、日本、それぞれの社中が巡回しています。

大神楽は代神楽とも言われ、江戸時代、伊勢参りために、大神楽の一行が地方へ向かい、天照大神の場(お神楽を受け持つ地域)を持ち、各家庭の「カ」を行い伊勢神宮のお札を配りました。

笛や太鼓の音に合わせて「チャカチャカ」というリズムが響くとワクワクした方も多いのでは。朝の7時頃からかまど回りは始まります。2組のり上げた籠からお札を家人に渡し、お初穂のお米やに開封し、紙を吊るすなどで合図をもう一組に知らせ、2頭になり、神楽の舞の曲が増えていきます。

紋付羽織袴を着たシガシガ役が大きな獅子頭を白髯を持ち、美しくしっとりとして舞ったり、白刃を抜口で舞います。頭を獅子頭に噛んでもらうと頭痛もいられると言われています。



地方の庶民のまたとない娯楽でもありました。

昭和56年に伊勢大神楽は国指定重要無形民俗文化となっています。

参考資料：「伊勢大神楽 浜谷幸雄監修」[別冊太陽]「ヤササの里金屋」[近畿地方の民族芸]

【問合先】 ふるさとプロジェクト(図書館)

写真でたどる ふる

昔の子どもの遊び② ～道具を

子どもの遊びには欠かせないグッズもいくつかあり

①野球

男の子の遊びのベスト1は野球。神社の境内へ行けばいほどやっていた。グローブはキャッチャーだけ皮や」と冗談に言っていました。

その場にいる人数に応じて、いろいろなやり方をし「太鼓ベース」 打ったボールを拾ったところからキで取れたらアウト。取れなかったら1点。スリーアウト(三角ベース) 人数が少ないときは2塁を抜いて、オて次の打者がいないときは、「透明ランナー」を置いて、打者を越えたらホームラン」などと場所に合わせて

②めんこ



円い「丸めん」、四角い「角めん」がありました。自分のめんこで相手のめんこを裏返す、机上でめんこを飛ばして距離を競い合う、積み上げためんこを親で抜く、などの遊びがありました。負けて全部取られて、半泣きになって帰ったりもしました。

一方、女の子も定番の遊びがいくつもありました。

④ゴムとび

ゴムひもの両端を二人が持ち、高さを変えながらそれを跳び越す遊び。跳び方にも、おんな跳び、おとこ跳び、まるとび、はんかけ跳びなどいろいろな技がありました。また、ゴムひものを輪にして2本にし、歌に合わせて跳んだり、足に絡ませたりする遊び方もありました。



こういう遊びをととして、子どもたちの運動能力や適応力も身に付けていったのでした。

【問合先】 ふるさとプロジェクト(図書館)

写真でたどる

テレビが

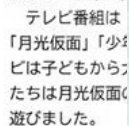
昭和28年(1953年)に設置された甲良町の男性の一ヶ月のたかかります。んでした。



街頭テレビ



催と個人所得もに希望を持ち、に中継アンテナしました。テレビも手を伸ばせば(昭和33年14性の一ヶ月の勤テレビの普及婚パレード②がために「お茶のテレビ番組は「月光仮面」「少年ビ」は子どもからたちは月光仮面の遊びました。このようにし



要なメディアになりました。

参考文献：写真で綴る湖国の

【問合先】 ふるさとプロジェクト(図書館)

写真でたどる

ふるさと再発見

滋賀県犬上郡甲良町

～甲良町の懐かしい思い出や郷土の歩みを写真とともに紹介しています～



index



37engei.boj.jp/index.html

参考資料：甲良町有線放送のあゆみ、安土町有線放送38年のあゆみ、甲良町要覧1965

【問合先】 ふるさとプロジェクト(図書館) ☎38-8088 FAX 38-8089

No.66まで続け、掘り起こしの写真も尽き、さて、この先どうしようか……？

再びY氏の提案

甲良町の歴史を最初からたどり直してみたら？

昭和50年代に圃場整備事業始まる



地下に埋もれていた
タイムカプセルが開かれた！

縄文時代～古墳時代～奈良時代の遺跡が続々と出土

町内の主な遺跡	
時代	主な遺跡(古墳・遺構・遺物)
縄文中期	金屋遺跡 尼子遺跡 北落遺跡 尼子南遺跡
縄文晩期	小川原遺跡
弥生	北落遺跡 尼子遺跡
古墳前期	下之郷遺跡 北落遺跡
古墳中期	九条野山古墳群
古墳後期	正楽寺古墳群 金屋古墳 北落古墳群 塚原古墳群 栗林古墳 小川原遺跡 金屋南 外輪古墳群 三博・四ツ塚古墳群 法養寺遺跡 下之郷遺跡 尼子南遺跡 長寺遺跡
奈良時代	下之郷遺跡 長畑遺跡 尼子西遺跡 在土北遺跡



これほど遺跡が密集する地域は全国的にも珍しい！

原稿作成にあたり、様々な文献資料を読み、
発掘を担当された先生方からもご指導いただきました。



神戸学院大
用田政晴先生



滋賀県文化財
保護協会
中村健二先生



滋賀県文化財
保護協会
宮崎幹也先生

まさに、「こうら、すごい！」

「ふるさと再発見！」の連続でした

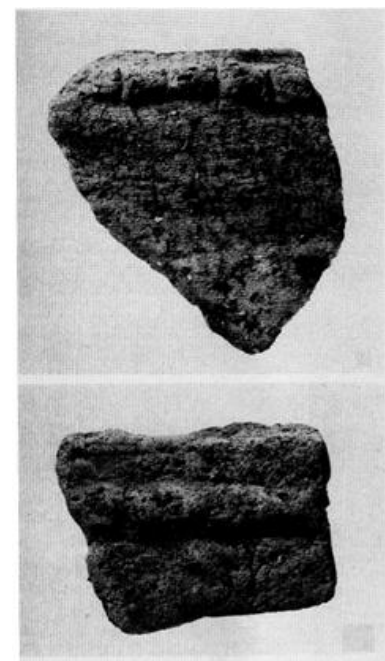
甲良4500年の歴史をたどる 縄文編（１）



永源寺相谷
熊原遺跡出土
13000年前



平成3年、圃場整備工事をしていた北落の田んぼの下から、土器の破片が見つかりました。研究者が調べた結果、何と、縄文時代中期のものであることがわかりました。今から4500年もの大昔、甲良町の辺りにも縄文人が住んでいたのです。



■縄文時代の甲良町の辺りはどんな景色？

その頃、甲良町の辺りは鈴鹿の山々から流れ出した川が熊手のように広がり、草木が生い茂り、イノシシやシカなどが生息する原野であっただろうと想像されます。

Chatgptが描いた復元想像図



■どんな生活をしていたの？



くぼみいし
凹石



いしざら
石皿

【北落出土の石器】

北落遺跡からは
「凹石」(木の実を割るときに使う石)、
石皿(木の実を加工する作業台)、
「磨石」(取り出した中身を粉状にすりつぶす石)、
が大量に出土しています。
また、木の実を貯蔵していた穴も見つかりました。

これらの遺物から、当時の人々は、ドングリや栗のような木の実を加工しクッキーやパンのような形にして食べていたと考えられます。

特に主要な木の実であった栗は、人の手で管理しないと維持できません。

甲良の縄文人はすでに農耕技術を持っており、主食は木の実で、その補いとして魚貝や獣肉を食べていたと考えられます。





黒曜石製
鏃(やじり)

北落で発掘された縄文時代の石鏃は、
長野県和田峠あたりで採れる黒曜石
で作られていました。



サヌカイト製

この石も、この辺りにはなく大阪奈良の
県境にある「二上山」で採れる原石を甲
良で矢じりに加工して使っていました。



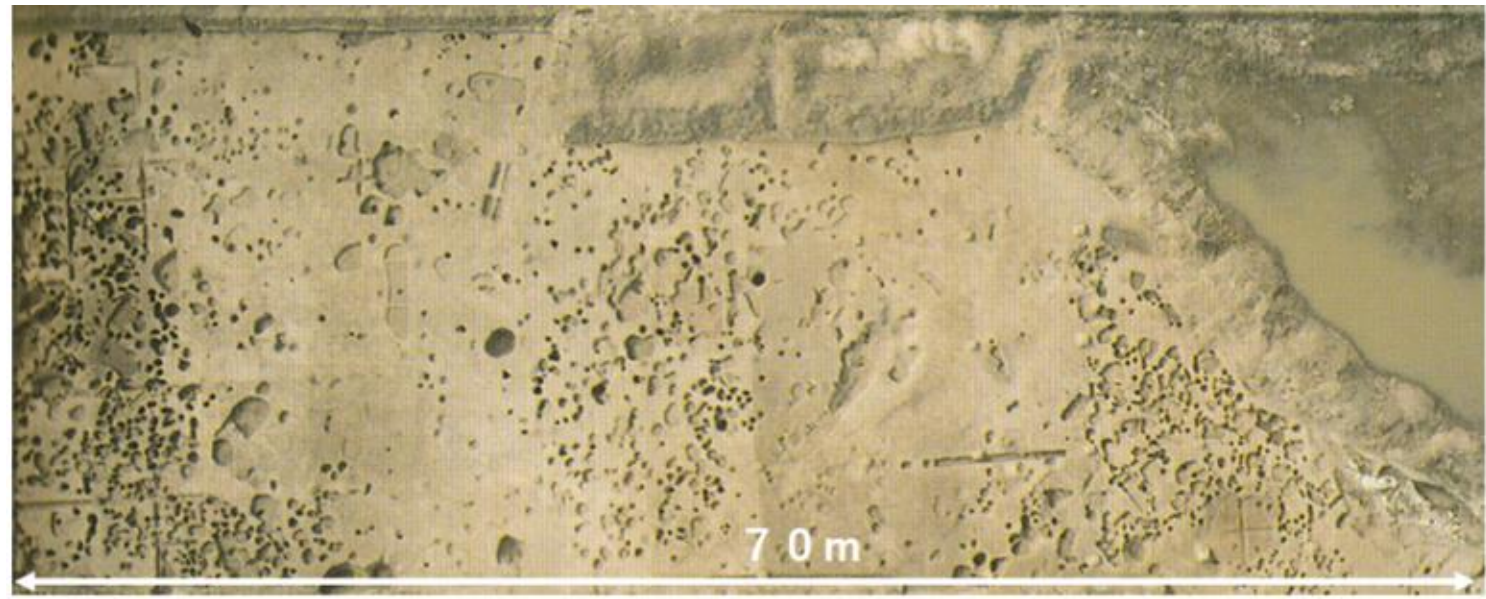
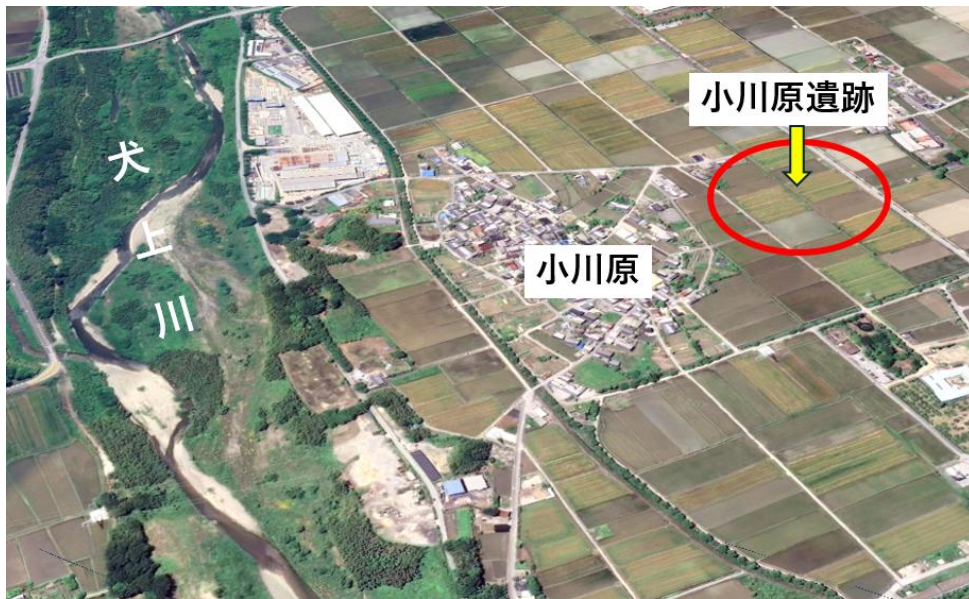
縄文人の日常生活に必要な原材料は列
島規模で流通していたのです。

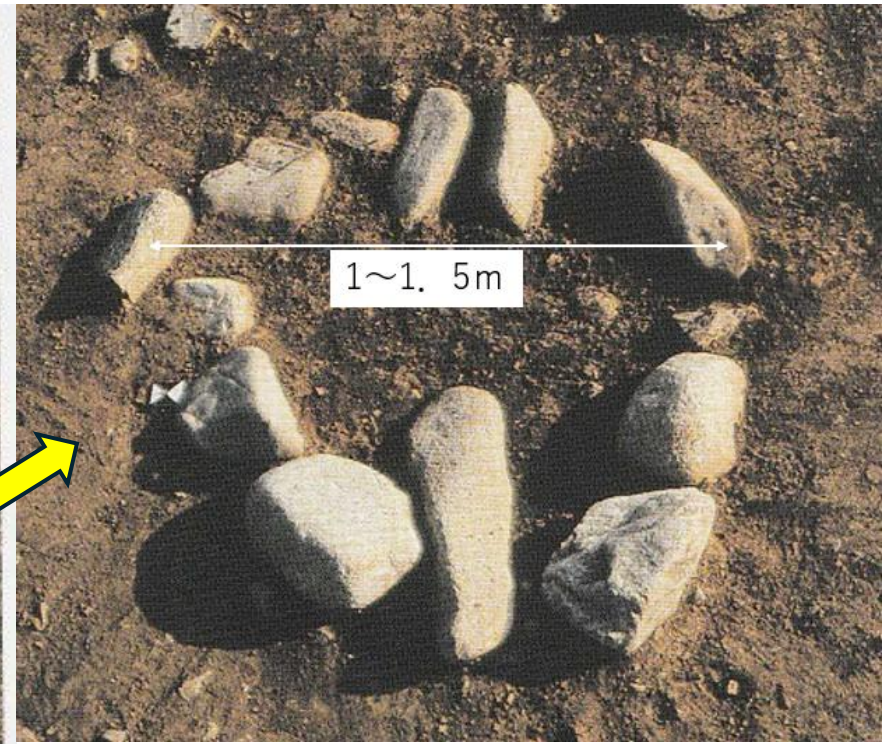
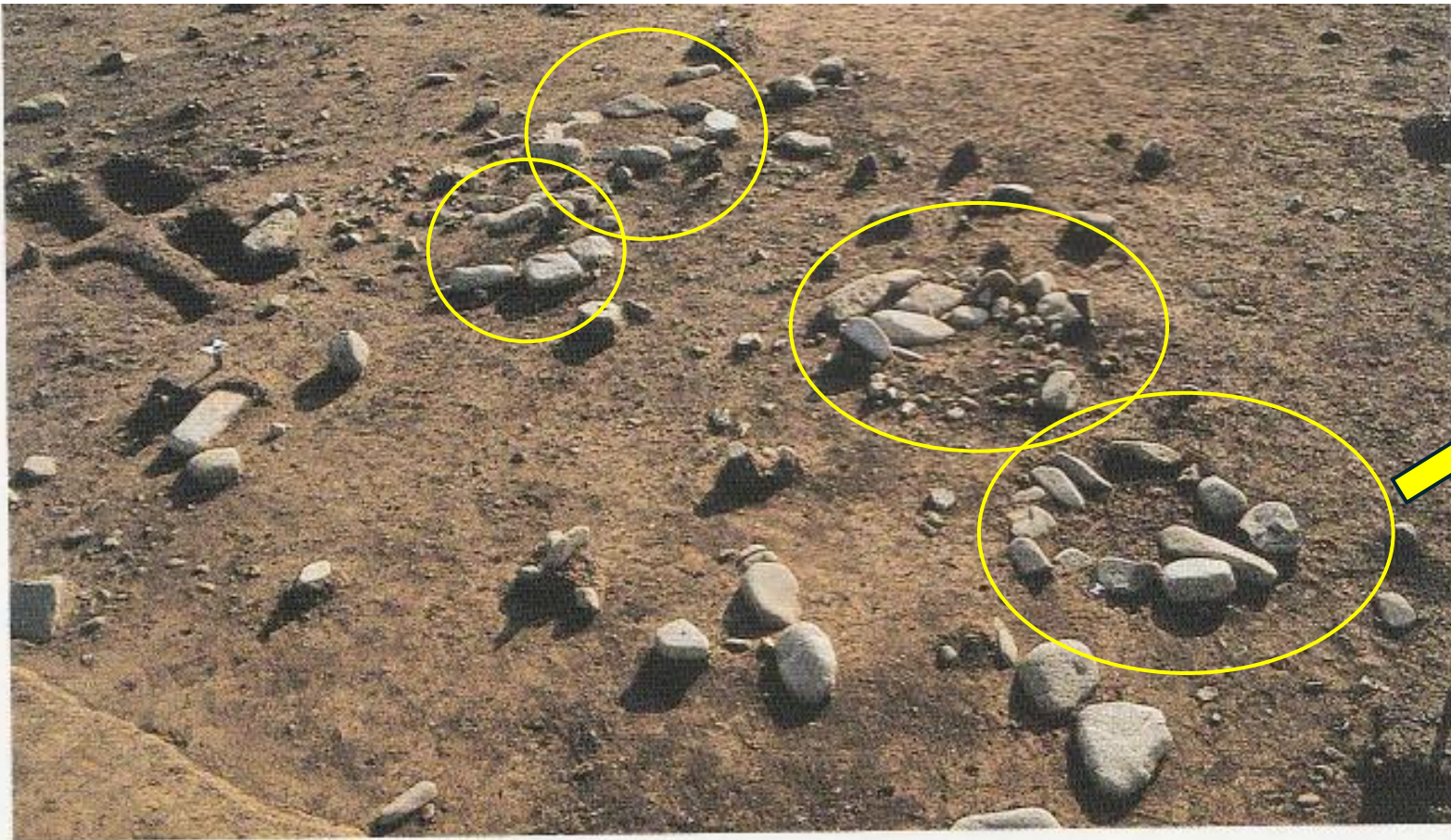
甲良4500年の歴史をたどる 縄文編（2）

西日本最大級の縄文集落 小川原遺跡

町内の縄文遺跡の最大の発見は**小川原遺跡（縄文後期3500年前から晩期）**です。

7千㎡以上に及ぶ範囲に配石遺構や、住居跡が出土し、**西日本最大級の縄文集落**があったことがわかったのです。



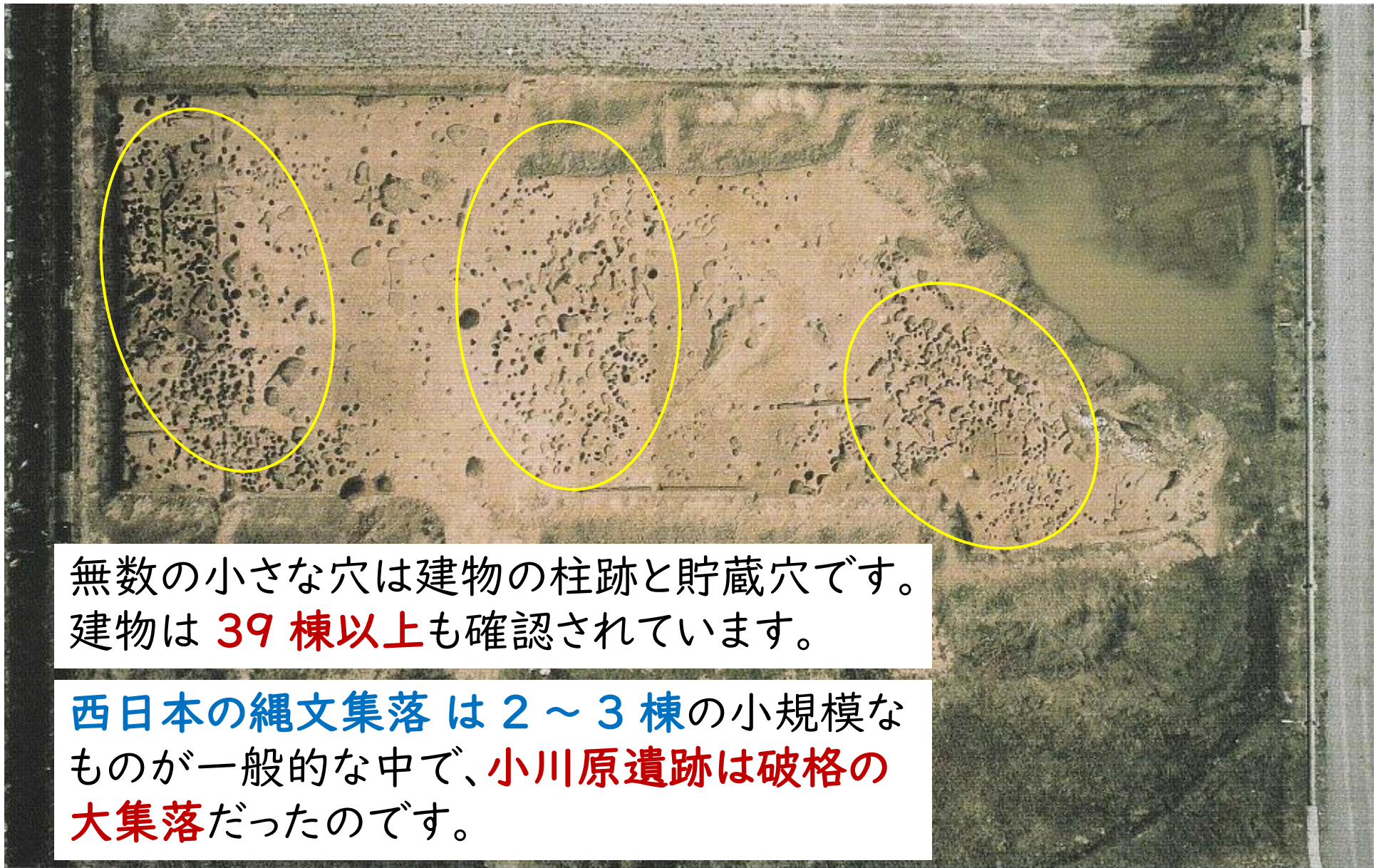


細長い立石が直立に立っている

photo.7-1 小川原遺跡 配石遺構群

人の頭くらいの大きさの石を1~2mくらいの円形に並べたり、直線に並べたりした「**配石遺構**」といわれるものが**22基**も出土しました。東日本では大規模なものも発掘されていますが、**西日本ではこれほどの大規模な遺構は極めて珍しく**、発掘当時、各新聞社が大々的に報道しました





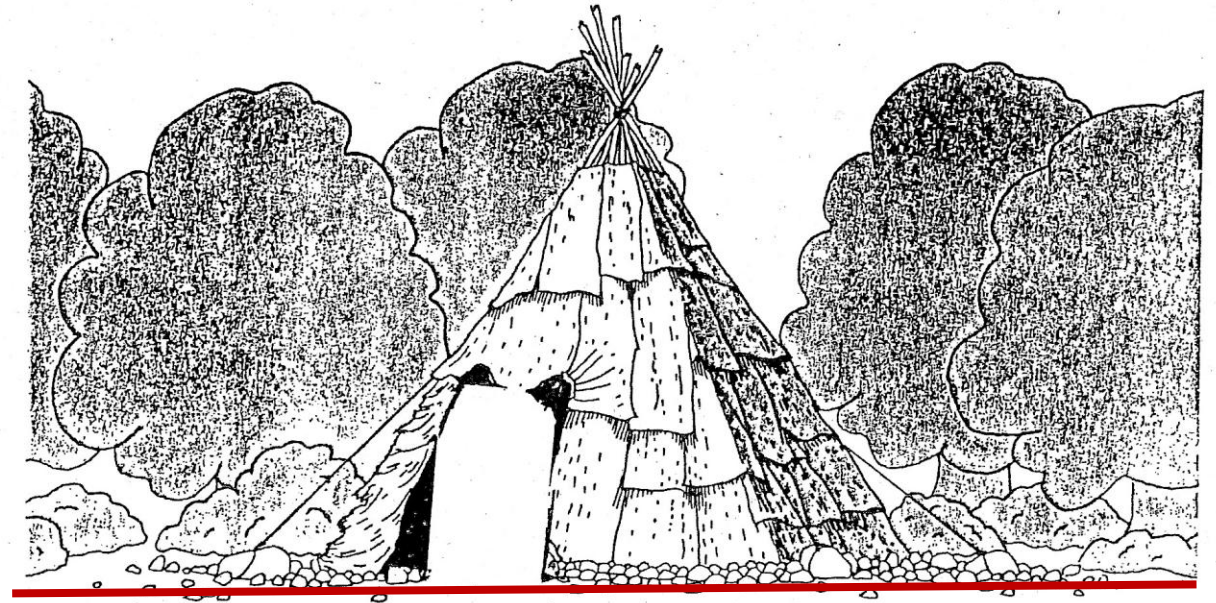
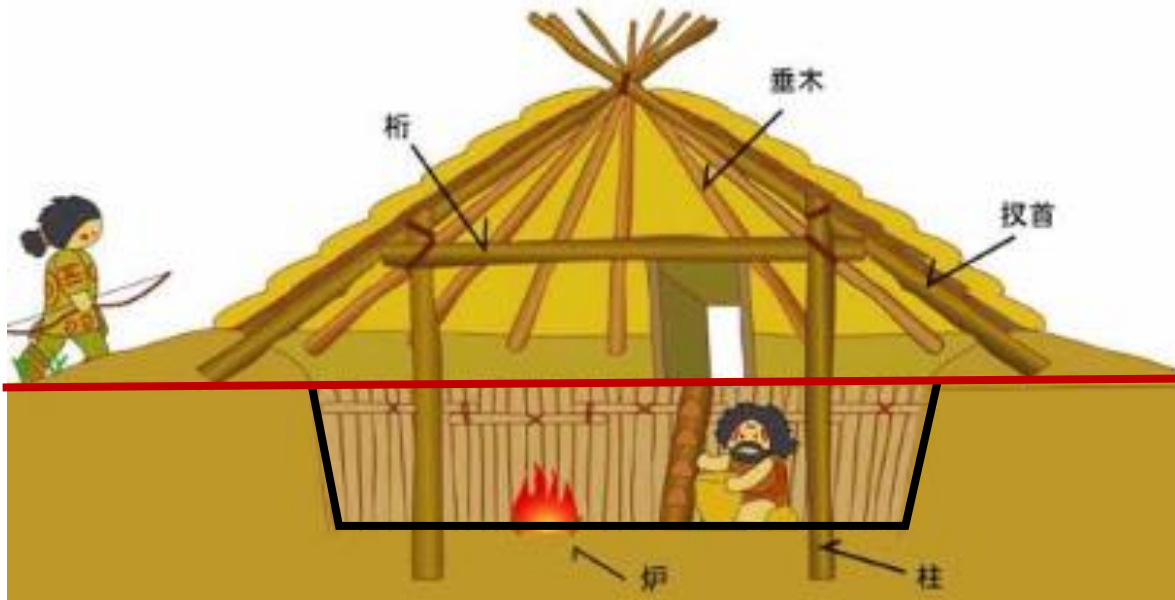
無数の小さな穴は建物の柱跡と貯蔵穴です。
建物は **39 棟以上**も確認されています。

西日本の縄文集落は **2 ～ 3 棟**の小規模な
ものが一般的な中で、**小川原遺跡は破格の
大集落**だったのです。

photo.6 小川原遺跡全景（配石遺構除去後）

へいちしき
建物の様式は、穴を掘らない「**平地式住居**」でした。

竪穴住居の構造



小川原遺跡は、掘らずに平らな地面に建てる
平地式住居

東日本の配石遺構のある遺跡では全て**平地式住居**になっています。

「貯蔵穴」からはドングリの実がたくさん出てきました。当時では、
アク抜きの手間が少ない「イチイガシ」の実が主に食べられていた
のですが、

小川原の縄文人は**東日本の縄文人が食べていた「コナラ」のド
ングリを主に**食べていたのです。

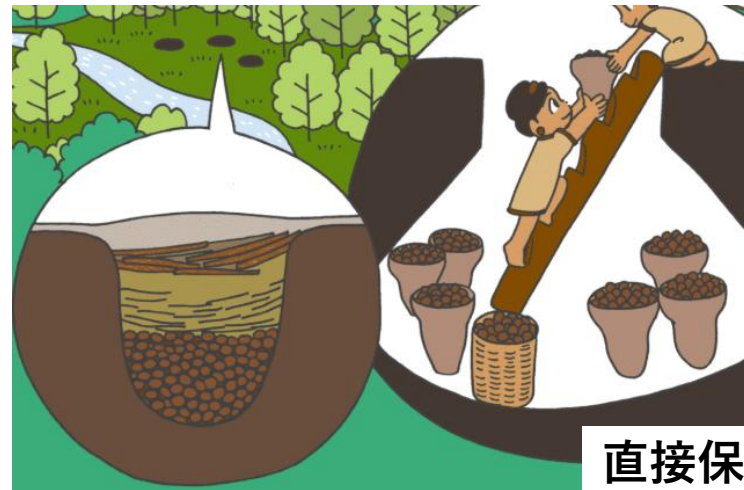


イチイガシ



コナラ

貯蔵穴も、**関東の台地**のよう
な**場所にあるもの**とよく似た
乾式貯蔵穴をしていました。



水に漬けて
保存する湿式(西日本)

直接保存する乾式(東日本)



小川原遺跡の貯蔵穴から
出土した土偶

途中の地域では
出土しない



ハート形土偶(群馬県郷原遺跡)

ハート形土偶は北関東から南東北の土偶で、東海地方でも出土例が無く、**小川原遺跡の出土例が分布の西端**になっています。

- 配石遺構は東日本特有のもの
- 出土したハート形土偶は東日本の土偶と見分けがつかないくらいそっくり
- 東日本にはあるが西日本ではほとんど例がない平地式住居
- 食べている木の実、東日本の縄文人が食べるコナラのドングリ
貯蔵穴も関東の台地に見られる乾式



■東日本の縄文人が小川原に来た？

「台地と同じ生活環境を求めて、水の無い扇状地の小川原に
遙々東日本からやってきた縄文人が生活していたと考えても
いいのではないか。」（発掘担当の中村 健二氏の見解）

小川原遺跡は、縄文後期の一時期に存在したものの、晩期には忽然と無くなってしまいます。

甲良4500年の歴史をたどる縄文～弥生時代

■ Donguri から コメ へ

滋賀県でも米作りが行われるようになったのは、今から約2500年前のことでした。稲の栽培には豊富な水が必要です。**労力が少なくて田ができる琵琶湖畔から栽培が始まりました。**



荒神山近くの稲里遺跡(弥生時代前期)からは 300 点を超える炭化米が出土しています。



守山服部遺跡の水田跡・大中の湖南遺跡出土木製農具

■甲良にも米が伝わってきた

弥生時代初期の遺跡である北落古墳群遺跡や尼子遺跡から、弥生土器の壺や破片が出土しています。

調べた結果、「**遠賀川式**」の土器であることが分かりました。**この形式の土器が出れば米作りの文化が伝わっていたという証拠**になる土器です。

つまり、甲良にも米作りの文化が伝わっていたということです。

ところが……



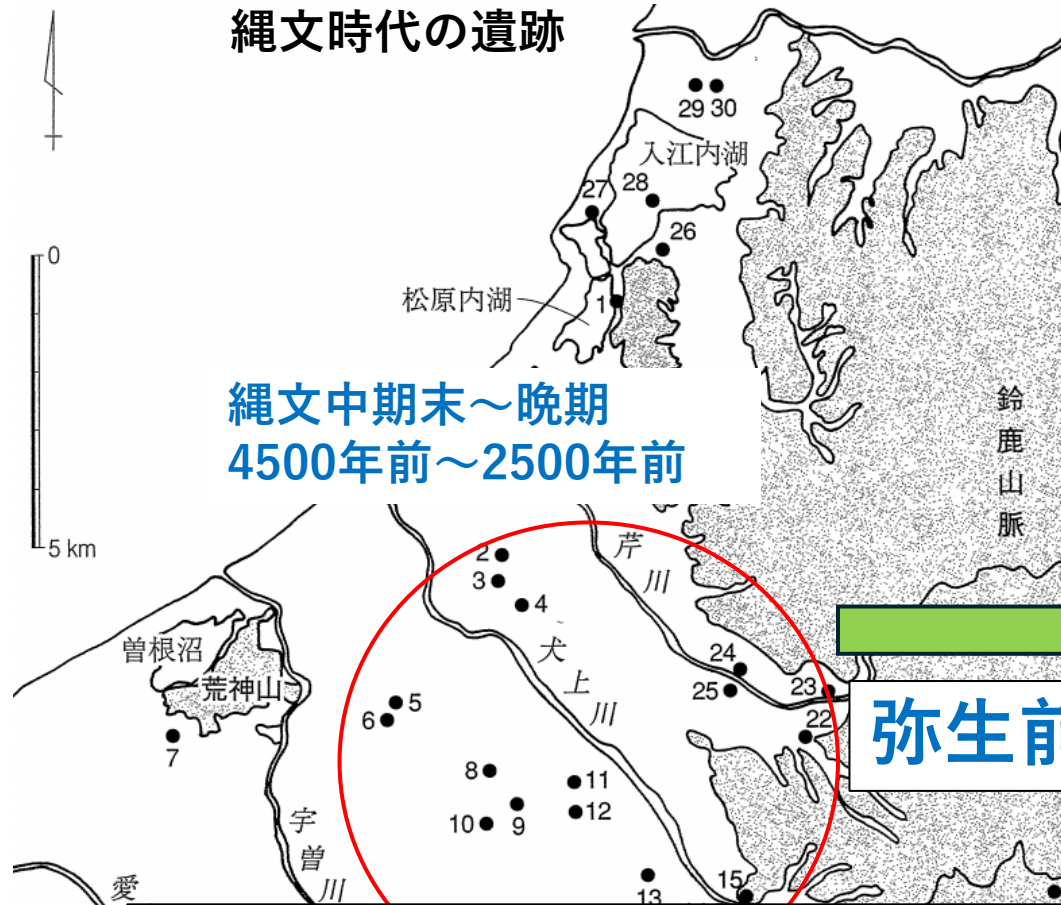
北落古墳群出土壺



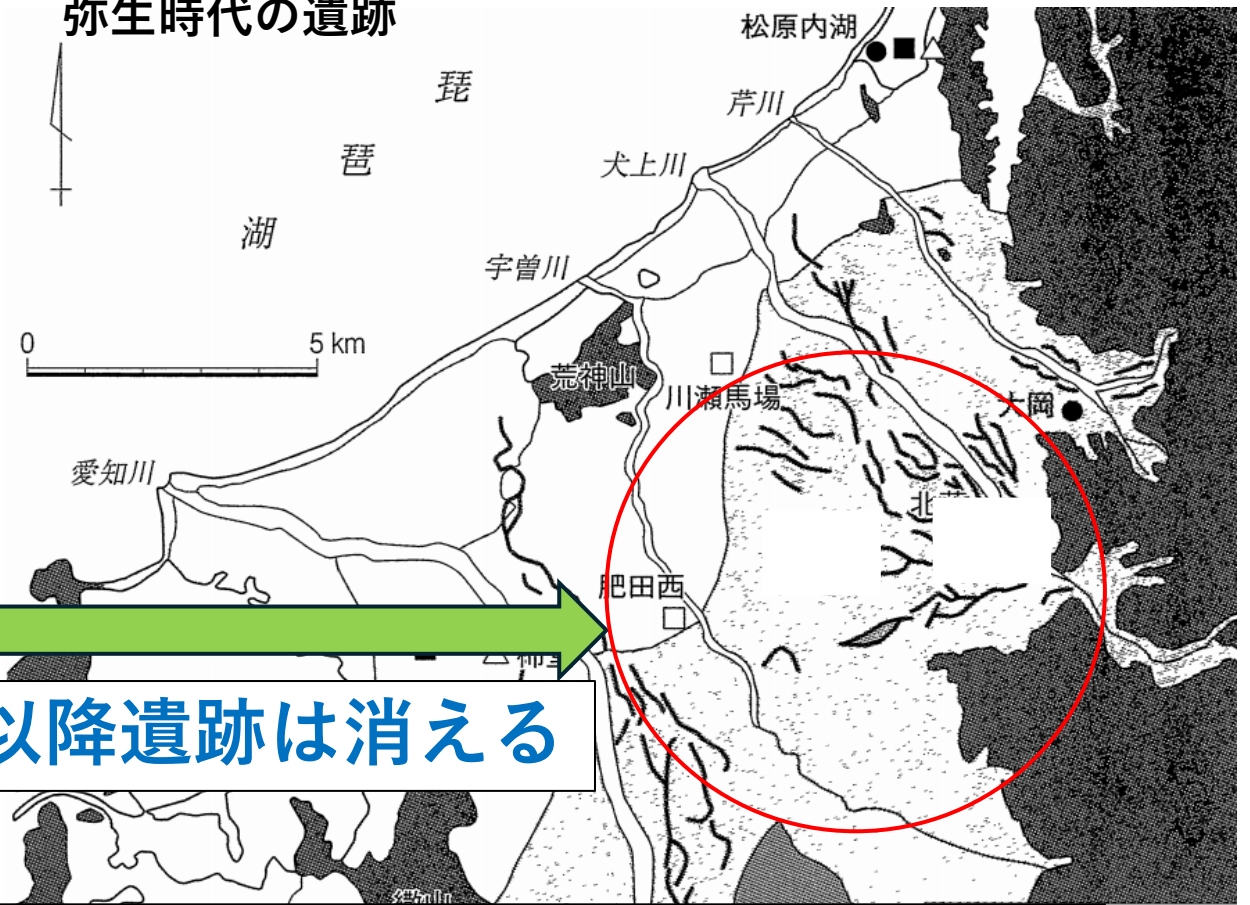
尼子遺跡出土土器片

縄文時代の遺跡

縄文中期末～晩期
4500年前～2500年前



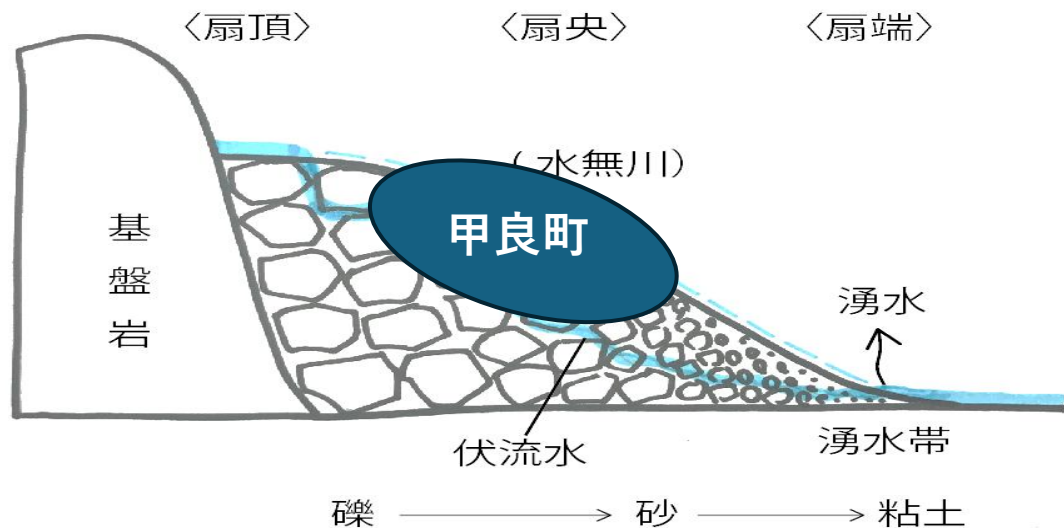
弥生時代の遺跡



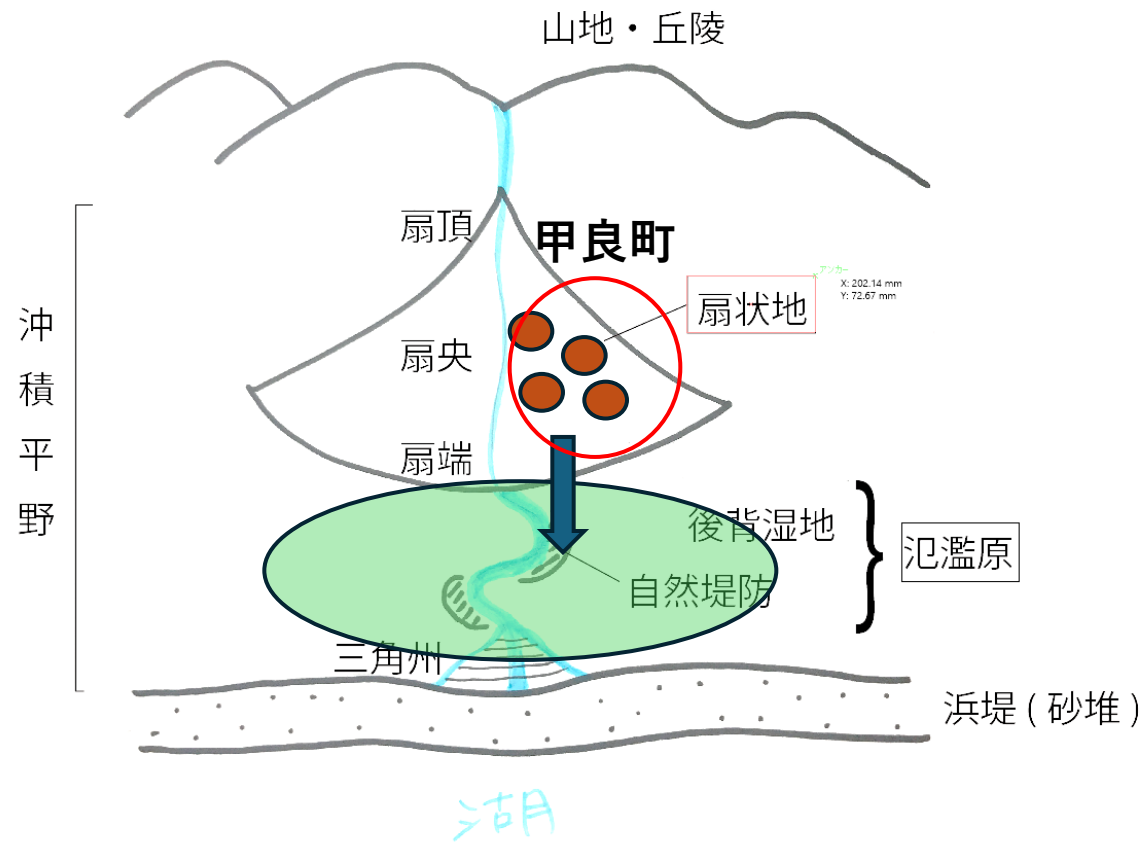
弥生前期以降遺跡は消える

米作りという新しい生活様式が伝わり、一層栄えるはずの甲良から、なぜか人が消えてしまうのです。いったいどうしたのでしょうか。

扇状地の構造



扇状地では保水力が無く、
田を作ることは不可能

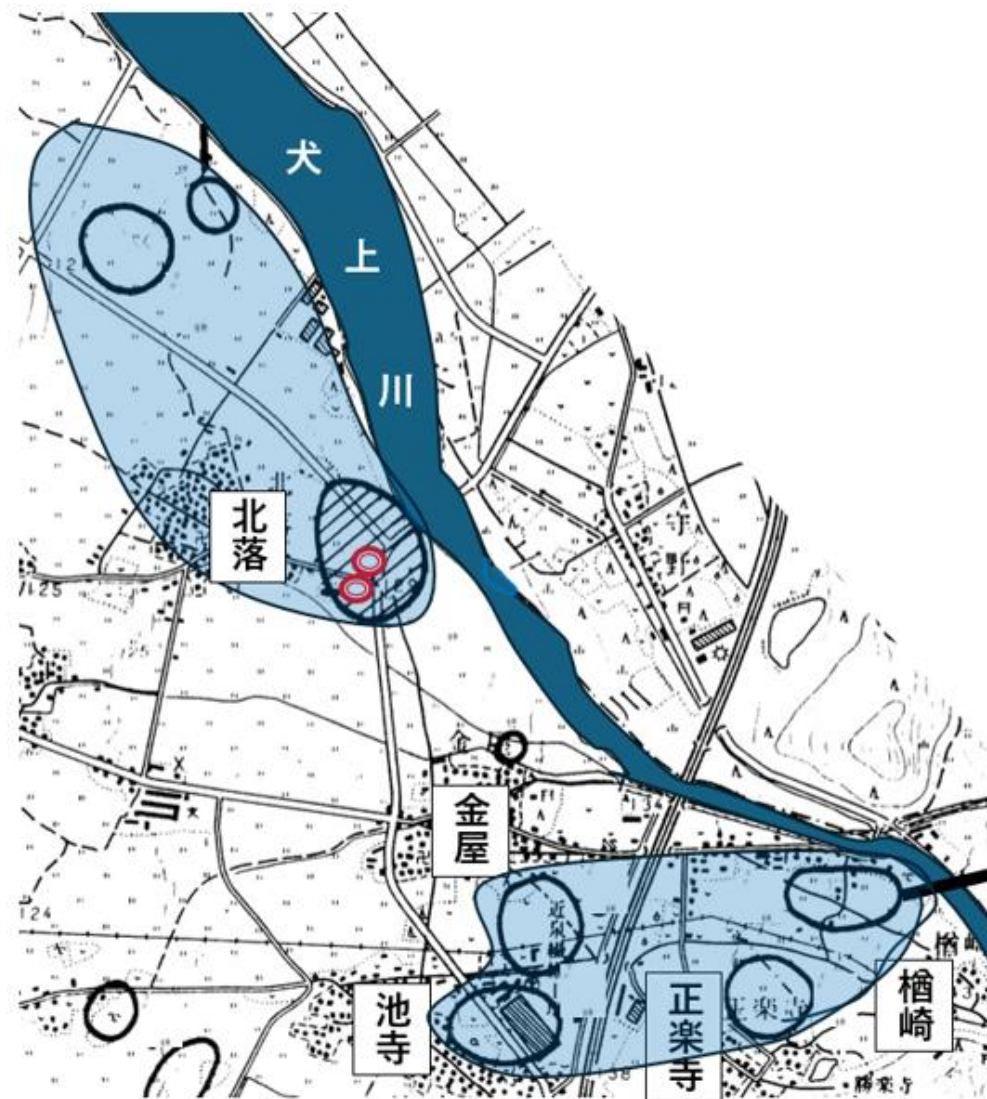


扇状地の人々は、稲作が可能な
後背低湿地へ移動していった

甲良4500年の歴史をたどる 古墳時代

■眠りから目覚めた甲良

無人の荒野と化していた甲良の地も6世紀に入ると激変します。犬上川扇状地の始まりの部分に当たる檜崎・金屋・正楽寺・池寺、その下の北落一帯に、**6世紀半ばから古墳(お墓)が爆発的な勢いで作られる**ようになるのです。**その数、百基以上**と推定されています。





渡来人の古墳群

指導者の
古墳



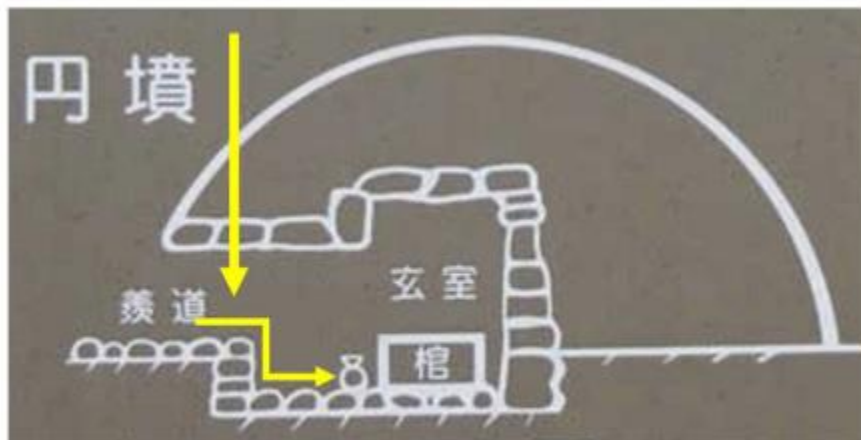
甲良4500年の歴史をたどる 犬上川左岸古墳群の検証

■犬上川左岸の古墳群の主は渡来人

檜崎～北落にかけて百基以上あった古墳群。それらが渡来人のお墓だったということは、どんなことから分かるのでしょうか？

①お墓の作り方

入り口の通路から一段下りて石室がある



朝鮮系の古墳

指導者の古墳は日本式

入り口から石室までフラット

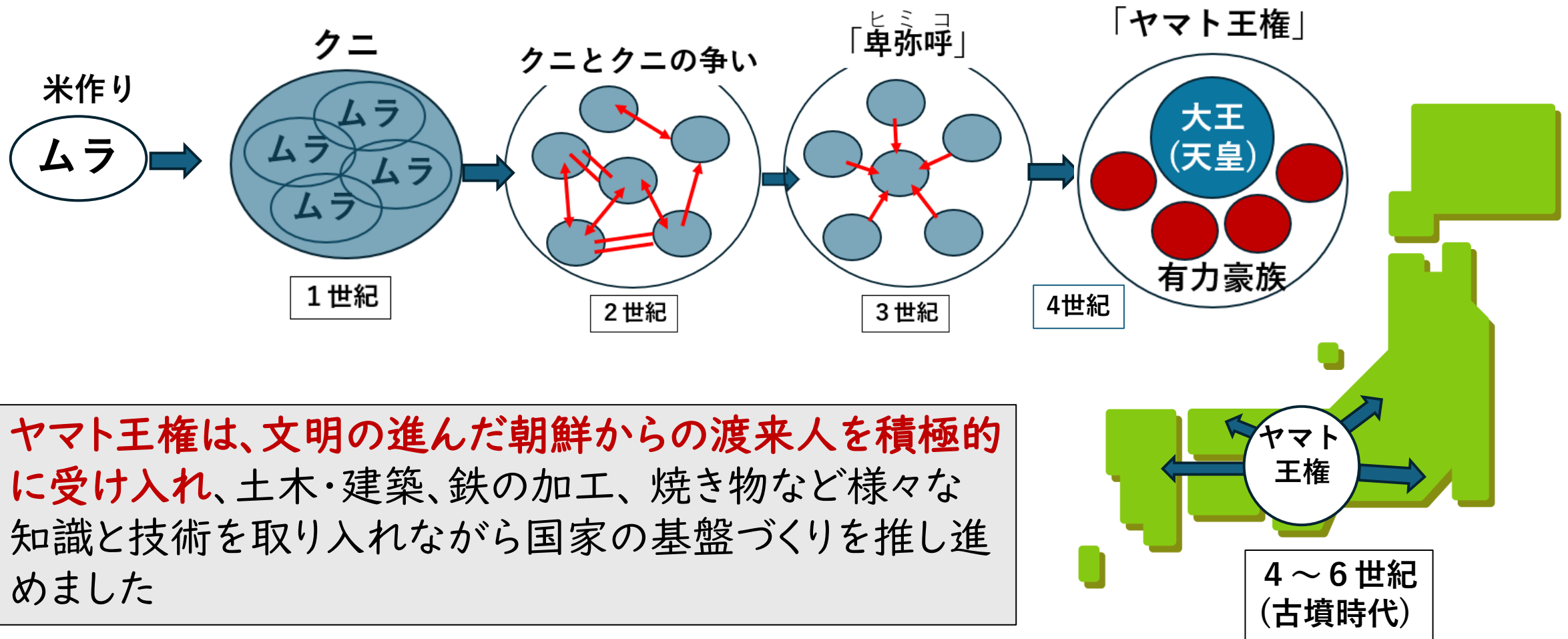
日本式の古墳
(檜崎1号墳)

②平底の土器

徳利型平底壺
(小川原遺跡出土)

平底土器は百済系

なぜ朝鮮半島から人がやってきたの？



ヤマト王権は、文明の進んだ朝鮮からの渡来人を積極的に受け入れ、土木・建築、鉄の加工、焼き物など様々な知識と技術を取り入れながら国家の基盤づくりを推し進めました

高句麗

争乱

新羅

百済

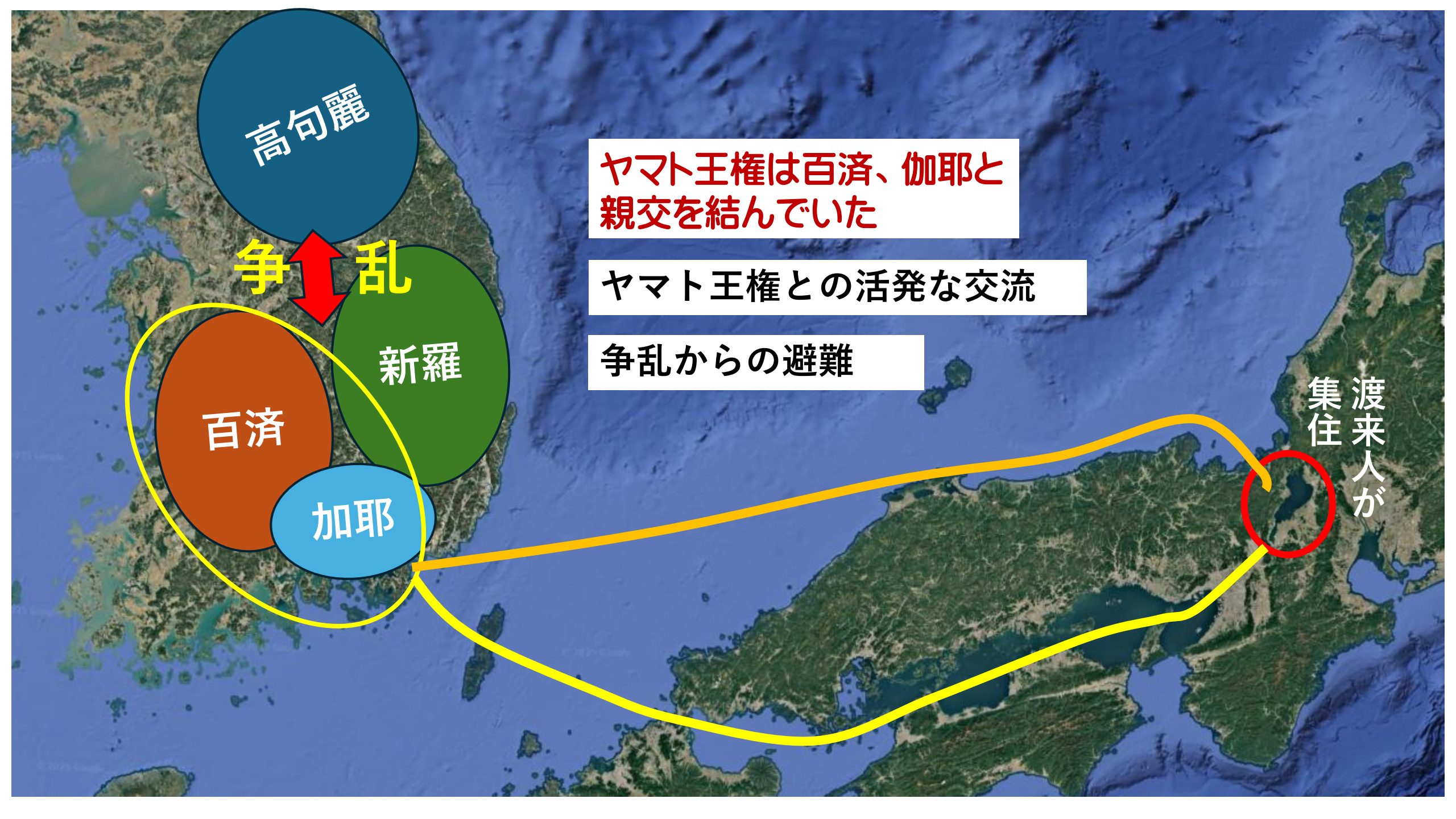
加耶

ヤマト王権は百済、伽耶と
親交を結んでいた

ヤマト王権との活発な交流

争乱からの避難

渡来人が
集住

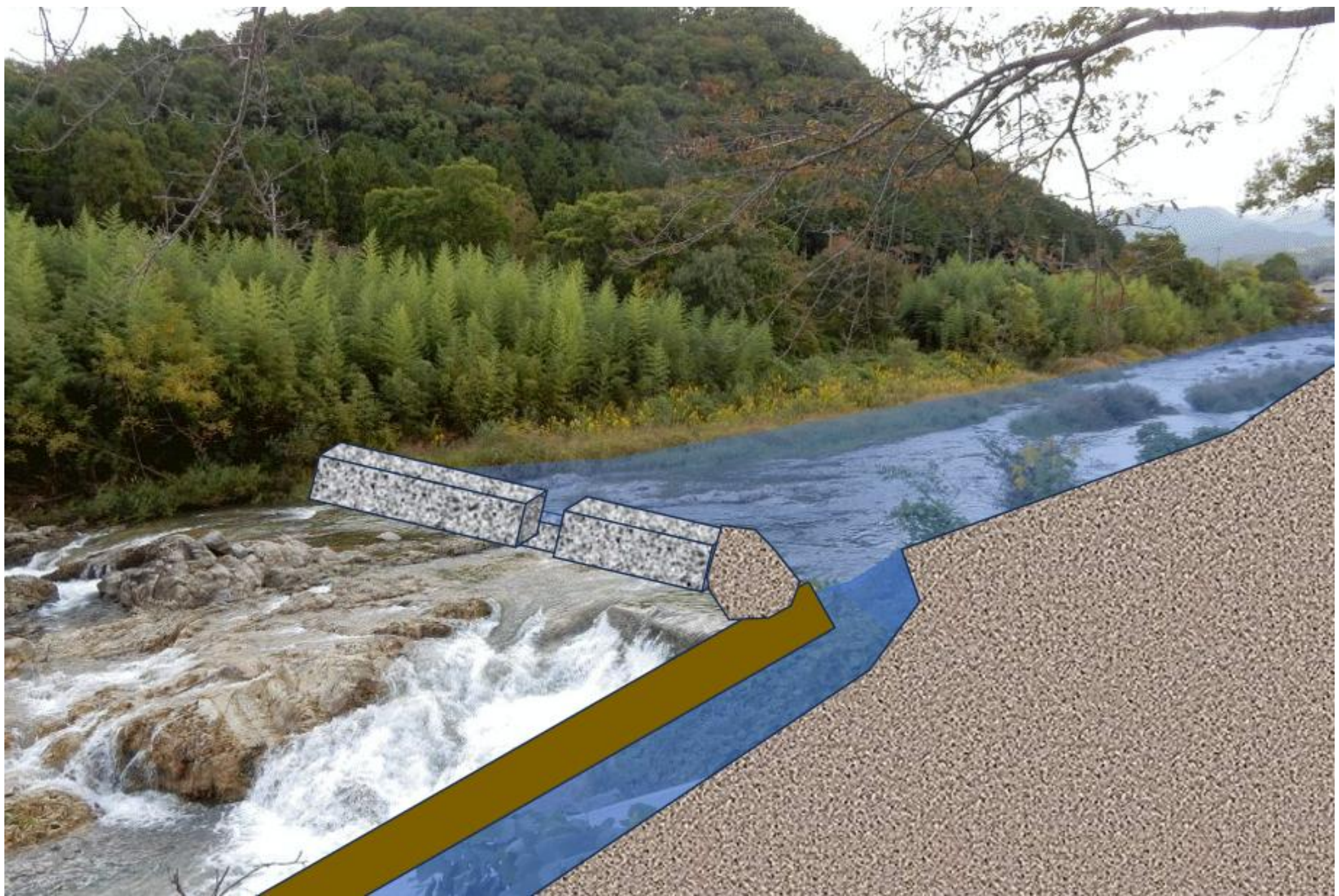


北落遺跡を発掘された用田政晴氏は、
「扇状地開発の使命を帯びた中央からの指導者あるいは有力
豪族が渡来系技術・作業者集団を指揮し、犬上川からの取水
工事、用水路開削を行った。群集墳は、彼らの墓である。」と述
べておられます。



ゆ
一ノ井





犬上川から導水した水路跡



「扇状地開発の使命を帯びた中央からの指導者あるいは
有力豪族が渡来系技術・作業者集団を指揮し、

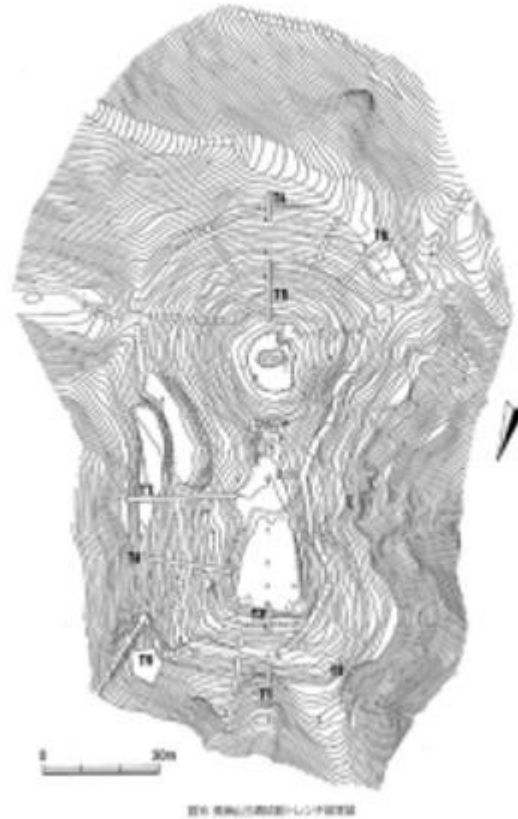
それは誰？

少し視野を広げて考えてみたら……



荒神山古墳の発見

平成14年(2002年)、荒神山山頂に全長112mの前方後円墳があることが彦根市教育委員会の調査で明らかになりました

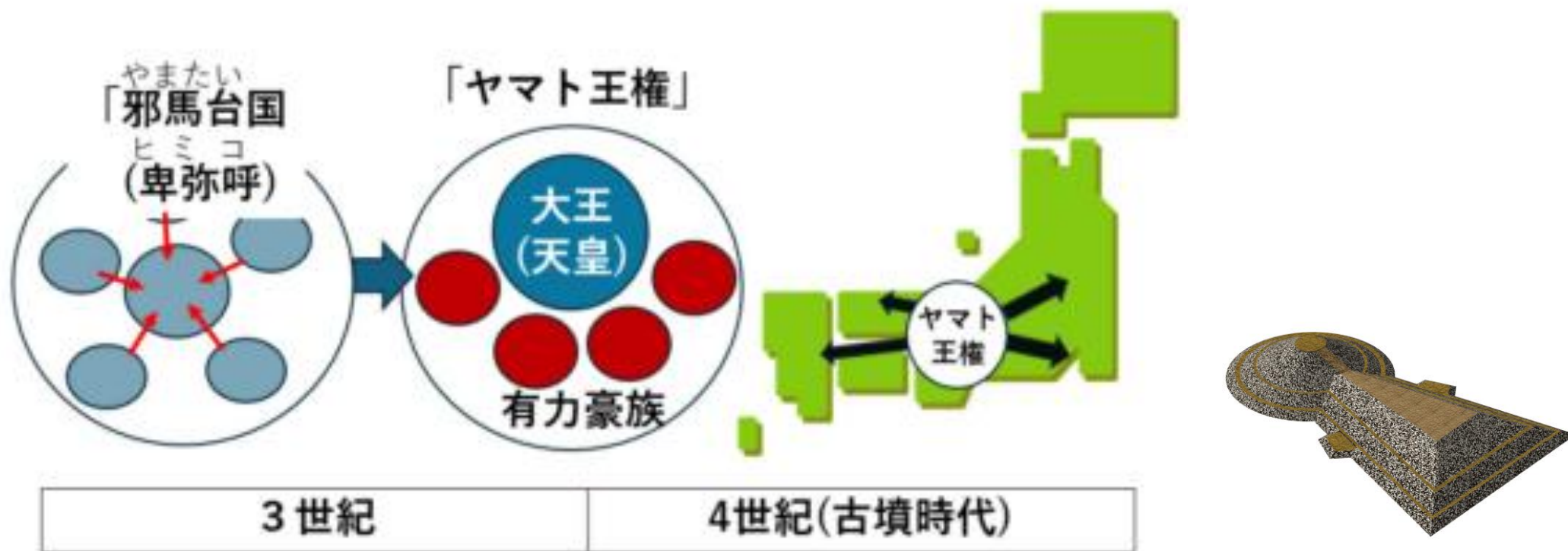


造られたのは
古墳時代前期の4世紀末



米作りを中心とする人々の暮らしは荒神山付近の琵琶湖岸から始まり、その富を掌握していった一族が巨大な前方後円墳を築くほどの力を持つ豪族になったと考えられます。

■ 荒神山古墳の主とヤマト王権



ヤマト王権に参画する各地の豪族は、その権威の象徴として巨大な前方後円墳を築きました。

つまり、荒神山古墳に葬られた主は初期のヤマト王権を支える近江の有力な豪族だったといえます。

琵琶湖の
水運を掌握

在地豪族

渡来人

犬上川扇状地
の開発

ヤマト王権

①湖岸で稲作が始まる

②湖岸地域のムラを統合する支配者層
(豪族)が現れる。

③渡来人が湖東地方にも流入してくる

④渡来人の技術力を活用し犬上川扇状地
の開発を進める。

また、湖岸の立地を生かし、琵琶湖の水運
も掌握し、巨大な力を持つ豪族になっていく。

⑤全国制覇をめざすヤマト王権が湖東地方
を押さえる要として密接に結びつく。

甲良4500年の歴史をたどる 犬上氏

607年、聖徳太子が小野妹子を「遣隋使」として中国の隋に派遣しました。

その最後の遣隋使を務めたのが「**犬上御田鍬**」という人物でした。彼は、630年の第一回遣唐使にもなっています。

けんずい し けんとう し いぬかみの み た すき
■遣隋使・遣唐使になった犬上御田鍬

犬上御田鍬という名が示すとおりに、彼は**犬上郡**に本拠を置く「**犬上氏**」でした。

犬上氏は、ヤマト王権を代表する使者として中国や朝鮮の国々との外交に関わるほどの力を持つ氏族だったのです。

■武人としてもヤマト王権の中枢にいた犬上氏



645年、乙巳の変（大化の改新）の後、皇位についた孝徳天皇の即位式で、
「**犬上建部君、金の鞆（ユキ：矢入れ）を帯びて、壇の左に立つ**」
と日本書紀に書かれています。

これは、犬上建部君が天皇を護衛する親衛隊のトップの地位にあったことを示します。

犬上氏は、武力においてもヤマト王権中枢を支える重要な豪族でした

しかし、犬上氏については、

「犬上郡に本拠を置く豪族」ということ以外は全く不明です

「荒神山古墳を築いた湖岸の豪族」 ⇒ 「犬上氏」！

と我々は推論するのですが、

考古学者の返答は、「ノーコメント」です。

「それを裏付ける史料が無い」

今は我々の仮説とし、今後の研究の進展を待ちたいと思います。

このあとも、驚きの甲良の歴史が続くのですが、
今回はここまでとします。

ご清聴ありがとうございました